



『賀茂保憲女集』索引(三) : 序文自立語篇(2)

著者	古賀 典子
雑誌名	筑紫女学園大学紀要
巻	17
ページ	1-13
発行年	2005-01-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1219/00000918/

『賀茂保憲女集』索引(三) — 序文自立語篇(2) —

古賀典子

The Index to the Vocabulary of "Kamonoyasunorinojyoshū" (III)

— On the "Preface" (2) —

Noriko KOGA

凡例

- 一、この索引は、『筑紫女学園大学紀要 第十六号』(二〇〇四年一月)所載「賀茂保憲女集」索引(二) — 序文自立語篇(1) — に連続し、「な」行、「わ」行を収める。「凡例」の詳細は前号による。
- 一、序文自立語篇(2)に続けて、【付載】として、『賀茂保憲女集』和歌の詞書・左注の自立語索引を載せる。その「凡例」は、『賀茂保憲女集』索引(二) — 和歌自立語篇 — (『筑紫女学園大学紀要 第六号』一九九四年一月)に従う。

「な」

な「名」 四〇・五四
 なか「中」 二・四一 五〇 二・
 三 五
 なか「仲」 九
 ながし「長」 ク 二九 ウ 六一
 キ 六一・六四 八二
 ながす「流」(おもひ) 三六
 ながむ「眺」 メ 八〇 一一 ム
 ル 一〇
 なが(むしろ)「長(筵)」 一八
 なが(も)「長(裳)」 一八
 ながる「流」 レ 八二 ルル 五二
 五一 一一
 なき(ふし)「亡(節)」 四九
 なく「鳴」 ク 五三 ケ 二七
 (うち) 八〇 四六
 なく「泣」 ク 四二
 なくさの(はま)「名草(浜)」 三七
 なくさむ「慰」 メ 一三

なげき「嘆」 九一 四一
 なげく「嘆」 キ 一六・三三
 なさけ「情」 一五
 なし「無」 カラ 五九 カリ 三
 一〇・一一 一九 ク 六八
 九・九・四七・四八・六五・六六・
 七・九・二・一一 二・二二
 一三三 ウ 二二 シ 六・三
 一・三三・五三・五四 九九
 二・二五 キ 四〇・六五
 二・三五・四一・九一 ケレ
 八三(へだて) 四四・四七
 なす「為・成」 シ 七五 一一・四
 一 三六 ス 三八(とり)
 六〇

なぞ「何」 四八
 なたで「名立」 二〇(なたて)ヲ訂
 なつ「夏」 五四・五五 一・三九・
 五六 四二 二二
 なつさふ 三六
 なに「何」 一六・四二・五二・五三・
 五六
 なにかは「何」 三四 五四
 なにとも「何」 一一六
 なにの「何」 一一〇
 なのはづ「難波津」 一一八 一六
 なのはの(こと)「何(事)」 七一
 なのはしろ「苗代」 三九
 なびく「靡」(うち) 七六
 三九 一八
 なまめかし「艶」 シク 七〇
 なみ「波」 三六・四七 九・三二・
 七四 二〇・三八(おきつ)
 三七 (たこのうち) 一三三
 なみだ「涙」 八〇・八三 六七・九
 〇 二七
 なよたけ「孺竹」 八二
 なら「奈良」 二 四一
 ならず「鳴」(うち) 一〇八(かき
) 一七
 ならふ「慣」 八 六六(なくは)ヲ

訂 へ 二
ならぶ「並」 バ 八 ベ 七 三

一八

なり「まさる」成「勝」リ 八五

なり「ゆく」成「行」ク 五二

なる「成」ラ 六五 リ 二四・三

五 八五・八六・九〇 四・四・

四一 ル 二九

なる「馴」レ 六五 レ 七一

(よ) () 一三三

【じ】

にくし「憎」カラ 一〇九

にし「西」四四 五 二二

にしき「錦」八一(から) 五〇

にはたたき「庭叩」一

にほぶ「匂」フ 四三三

によび「びと」呻吟(人) 一四

にる「似」二三四

【ぬ】

ぬ「沼」(かくれ) 四九

ぬる「濡」レ 二二

【ね】

ねざめの(と)「寢覚」(床) 一〇

〇

ねずみ「鼠」四二

ねのひ「子曰」一二(はるの)

五六(まつ)の() 五四

【の】

の「野」五四・五五

のこす「残」サ 五四

のこる「残」リ 四九(神「のにり」)

のぞみ「望」一六

のどかなり「長閑」ナリ 一四

のどけし「長閑」キ 一一

のぶ「伸」フレ 八八(ひき)

一三三

のべ「野辺」三三・七六・八六・二一

二・二二四 四二(「のつ」ヲ訂)

のり「法」一七

のりし「法師」九七

【は】

は「葉」五九(きの) 一九(く)

さ() 六六(この) 九〇

七(さかき) 九四(した)

一八〇(まつ)の() 一九

は(かげ)「葉(陰)」三三三

はが「狭」一〇二

はがため「歯固」一九

はかなし「果無」ク 八一 二六

キ 二五・四五 一〇二 一

〇 イ 四・五

はかま「袴」(みづ) 二九

はぎ「脛」二九

はぎ「萩」 八〇

はこ「箱」 三二

はし「橋」 一四

はし「端」 二四・二五 一〇

はじまる「始」 リー

はじむ「始」(かき) 六七

はじめ「初」 四〇・六九 五

はた(もじ)「二十(文字)」 七六

はちす「蓮」 四二・四三 五九

はつ「果」(いなび) 四〇(あと
し) 八三(くたし) 八〇

はづかし「恥」 シキ 三四

はつかなり「僅」 ナル 一四

はて「果」 四六

はな「花」 二七・四三・四五・六六

二二・三三・三六・三七・三七・

九八(うの) 四三

はなすすぎ「花薄」 七六

はなつ「放」 チ 一一四

はひ「灰」 三四

はひ(かかる)「這(掛)」 リ 一三

はぶぎ「羽振」 三七

はま「浜」 一一 一六(すみよし
の) 六(なぐさの) 三七

はむ「食」 ム 六九

はやし「早」 ウ 三三

はら「原」(あさが) 三六(あし
の) 七 五二(あしのなか
つくに) 六九(まつ) 二九

はらわた「腸」 一〇〇

はり「針」 一〇

はる「春」 四五 一一・一六・

二九・三八・一一二 二二

はるの(ねのひ)「春(子日)」 五六

はるかなり「遙」 二四二

なるけし「遙」 キ 二二 二二

はるひ「春日」 八二

ひ「日」 二五・六四 一五・二九・

三〇・三九・四六・五七 四七

ひかげ「日影」 九六

ひかり「光」 二五・二六・四一 五

五・五五・八四

ひき(さぐ)「引(下)」 ゲ 三三

ひき(のぶ)「引(伸)」 ベ 一一三

ひく「引」 カ 五五・五六 二五

キ 四九 ク 四六

ひさかたの「久方」 四四

ひさぎ「楸」 四二

三二

ひと「人」 三・八・九・二二・三二・

二二・三三・三七・四七・四八・四

九・五〇・六五・七二・七三・八二

一一・一五・一八・二二・三三・

四八・八一・九〇・九〇・九二・一

〇三・一一 三・四・五・九・

一一・三四・三六・四三・五一

二・八・一三・一九・一九・二〇・

二〇・二七 二・六(あだ)

二二

三

シカラ 五 シキ 二

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

八六 (によび) 一四

【ふ】

一〇五 五・二二

ひとこと「一言」 三九

ふりしく「降類」 キ 三三三

ひとし「等」 シカラ 八・二二

ふ「経」 フル 三・三九 フレ 一

ふりわけ(がみ)「振分(髪)」 一〇

ひとつ「一」 三三・七五 九・二二

五 六三

二

ひとひ「一目」 四

ふかし「深」 キ 一・一七・三九

ふる「降」 リ 二三 五九

ひとびと「一人」 三三

一五 二・三三 ケレ 一

一

ひとひら「一枚」 六〇

六

ふること「古言」 四一

ひと(むま)「二(馬)」 六

ふく「吹」 キ 一七

ひとり「一人」 六七・六九

ふくろ「袋」(おいの) 二六

【へ】

ひねもす「終日」 五三 四三

ふしみ「伏見」 三六

ひのもの(くに)「日本(国)」 一

ふす「伏」 シ 一二 ス 八〇

へだつ「隔」 テ 二六

ひびき「響」 二八

三七

へだて「隔」 五九

ひびく「響」 キ 一九

ふせぐ「防」 ギ 四〇

へだて(なし)「隔(無)」 シ 四四・

ひまなし「暇無」 ク 九〇

ふたがる「塞」 リ 九七

四七

ひみづ「氷水」 五七

ふた(こゑ)み(こゑ)「二(声)三

ひらく「開」 ケ 四五

(声) 二七

【ほ】

ひろく「広」 ゲ 三三

ふぢ「藤」 一三

ほ「帆」 八

ひろし「広」 ク 四

ふね「舟・船」 八・一九 三七

ほづらいの(やま)「蓬萊(山)」 一

ひをけ「火桶」 四〇

ふみ「文」 六七 三五

ほころぶ「綻」 ビ 九八 ビ 四三

ひんがし「東」 四四 二 一一

ふゆ「冬」 五〇・五二・五三 一

ほし「星(よばひ) 六四

ほし「欲」 シキ 二二

ほしそら「星空(あめつち) 六八

ほたる「螢」 五四

ほど「程」 六六 二二・二三・二七・

三九・四八・四九・五一・五八・六

〇・七一・七三・七七・九四・九七・

一〇六 四六・五五 五・一六

九 三

ほととぎす「時鳥」 四八

ほとり「辺」 七二 二二

ほのかなり「仄」 ナル 五八 二

三・四五

ほふし「法師」 一一六・一一八

ほりへ「堀辺」 一一九(「ほりへ」ヲ

訂)

【オ】

ま「間」 六八 五九・五九

まつく「設」 ケ 一〇・一一

まがきの(しま)「籬(島)」 一九

まかす「任」 セ 五三 九

まがふ「紛」(きえ) 一三三

まぎる「紛」 ルル 九九

まく「負」 ケ 五七・五八 クル

二二

まくら「枕」 六五

まくらがみ「枕上」 二六

まことに「誠」 七七

まざいらく「万歳樂」 一七

まさご「真砂」 一三三

まさる「勝・増」 リ 一四・四八・七

〇 二八・七九 三〇(おき

) 九二(なり) 八五

まして「況」 一七

まじる「交」 リ 一二四

ますかがみ「真澄鏡」 七二

また「又」 二三 九 二

まち(わづらふ)「侍(煩)」 ヒ 二

〇

まつ「待」 チ 二六・六三 ツ 八

一 ツ 五三 三三 テ 一

〇七

まつ「松」 一五 六・二・七四・

一一三 一六

まつの(ねのひ)「松(子日)」 五四

まつのは「松(葉)」 一九

まつばら「松(原)」 二九

まと「的」 五七

まどはず「惑」 シ 四五

まとゐる「円居・的射」 ル 四五(榊

「まとゐる」)

まなこ「眼」 一一 一一

まね「真似」 一

まねぶ「学」 ビ 四三

まふ「舞」 ヒ 九六

まま「儘」 三・三〇・六三 一三三・

三三・八九 六

まゆ「眉(やなぎの)」 三三

まゆみ「檀」 七八 六一

まれなり「稀」 二六六 ナリ 二

五 ナル 四四

まゐる「参」リ 一五

七 五七

【み】

み「身」 六・一五・一六・一八・二〇・

二三・三三 二五（わが）

三・二八・六一 一〇

み「実」(この) 一一七

みあぐ「見上」 ゲ 五七

みあれ「御阿礼」 四六

みがく「磨」 ケ 四〇

みかど「御門・帝」 一（あめの）

一

み（こゑ）「三（声）」（ふたこゑ）

二七

みじかし「短」 ク 六〇 二八・八

五 キ 六〇・六一・六四 六

九

み（しる）「見（知）」 ル 七三（櫛

「みえる」)

みす「見」 セ 五八 セ 二六・二

みそ（もじ）「三十（文字）」 七六

みだる「乱」（四段） レ 六一

みだる「乱」（下二段） レ 五三

ル 二二 ルル 三五・三六

二六

みちとせ「三千年」 五一

みちのく「陸奥」 七八

みづ「水」 一〇・三六・四六・五二・

八二 二八・三四・三九・五二・

五五・五六 一一（いけ）

五八（せき） 七八

みづ（ばかま）「水（袴）」 一九

みづつみ「湖」 二

みづぐき「水茎」 七八 三四

みどり「緑」 八三 二九

みな「皆」 七 五

みの「養」 一八

みのへ「身上」 三〇（みのつ）ヲ訂

みや「宮」 四三

みやこ「都」 二 四二

みやび「雅」 一五

みやびかなり「雅」 ナル 三二

み（やま）「深（山）」 四二

みゆ「見」 エ 七七 ユ 六 ユ

ル 三・六〇・六〇

み（よ）「御（代）」 六

みる「見」 ミ 八・一六 ミ 三二・

二四 二二・二五 二二・三五

ミル 九二・一〇四・一二四

一三 ミレ 二八・八一 九

五（あひ） 一〇七

みを「水脈」 一〇六

【む】

むかし「昔」 六一 一・一一

むさしあぶみ「武蔵鎧」 六九

むし「虫」 六・七・二六・六七 一

〇・七九・八五 三五（たまと

る） 一一

むしろ「筵（なが）」 一八

むすぶ「結」 八 四九(「むす」ヲ訂)

ベ 一〇五

むすばほる「結」 レ 八八

むね「胸」 三四

むばたまの「射干玉」 四〇・九二

むま「馬」 七七・九六(ひと)

六

むまる「生」 ルル 五

むめが(え)「梅(枝)」 一七

むれ(ゐる)「群(居)」 中 六九

【め】

め「目」 五七 二二六

めぐる「巡」 リ 四

めこ「妻子」 一一一

めづらし「珍」 シク 六四 一四

シ 九五 シキ 三八 五五

七

めなる「目馴」 レ 五四

【も】

も「裳(なが)」 一八

もがさ「痲瘡」 一・三・二五

もじ「文字(はた)」 七六(みそ)

七六(よそ) 七六

もち「餅」 二〇

もち(あまる)「持(余)」 リ 二五

もちづきの(こま)「望月(駒)」 七

七

もつ「持」 タ 八 チ 七〇

もて(ありく)「持(歩)」 ク 一〇

七

もてなす「成」 シ 三七

もてゆく「行」 ク 六(神)「もていく」

もと「本」 六八(きの) 三

もとむ「求」 ムレ 二

もの「物」 九 一一五・一一七

一四 一 一・八(そら)

四五

ものうし「物憂」 ク 四七

ものおもひ「物思」 四・六三 九

九

ものおもふ「物思」 フ 八九

ものがたり「物語」 九三

もみぢ「紅葉」 四四 六一・一一三

二六

もり「森」 二八

もろこし「唐土」 六八・七一

八

【や】

や「屋」 五

やう「様」 四 二二・六一

やうやう「漸」 二七・四五 四七

六

やしる「社」 四六

やつす「僧」 シ 二〇

やど「宿」 八六・九八 一〇

やどり「宿」 三七

やどる「宿」 レ 五五

やなぎの(まゆ)「柳(眉)」 三三

やへむぐら「八重葎」 二五
ゆき「雪」 五〇 五九・一〇四・一

やま「山」 一七・四四・四五・七一
ゆく「行」 カ六八 ク七・七
ゆるす「許」 サ二二・三二

九一・九七 (かがみの) 三
く 七七 二・六・九 (あけ
ゆゑ「故」 四三

(ほ)「いの」 (二九 (み) (三
(二七・四七 (あい) (三

四二
[や]

やまある「山藍」 九四
よ「世・代」 一七・二〇・二九・四〇・

やまざと「山里」 七九
八二 一〇七・一二六 (かみ)

やま(でら)「山(寺)」 三
八二 (とこ) (三六 (み) (

やまと(うた)「大和(歌)」 一七
六 (よろつ) (一・三

やまのは「山端」 四三
よ「夜」 六四・八一 七九・八二・

やまひ「病」 四・七・八・二四・二六
八九 四四・四七

やまびこ「山彦」 三五
よ「節・夜」 二八

やみ「闇」 三三・八一
よ(なる)「世(馴)」 レ 一三

やむ「止」 三一・七
よき「斧」 一一二

やむ「病」 三三 (神)「よみ」(三三
よく「避」 ケ 五八

二六
やる「遣(おもひ)」 六九 一〇
よく「欲」 一一八

ゆうべ「夕」 三三 六五 一〇
よこはしりの(せき)「横走(関)」

ゆふやみ「夕闇」 五四
五八(榊)「よこはしものせき」(

ゆみはり「弓張」 四四 三三
よさり「夜」 八六

ゆめ「夢」 六六
よし「良」 ク 一〇 八 キ 一

ゆめち「夢路」 四四
九

ゆかり「縁」 五

[ゆ]

〇四

よす「寄」セ三七
 よそ(もじ)「四十(文字)」七六
 よのなか「世中」一 一〇〇・二二
 一 一・四八 一〇
 よはひ「齢」一九
 よばひ(ほし)「婚(星)」六四
 よひ「宵」六八 八四
 よぶ「呼」ビ二七
 よぶ(こ)どり「呼子(鳥)」三五
 よみ(かはす)「詠(交)」シ一八
 よみがへる「蘇」リ五
 よむ「詠」マ二二 ミ一一
 九
 よむ「読」ム四
 よもぎ「蓬」五〇
 よよ「世世」六
 よる「因」リ一二五 一三
 よる「寄」リ一八 二五
 よるこび「喜」一一
 よるこぶ「喜」ビ二六 ブ三八

よろし「直」シカラ一八

よろづ「万」二

よろづ(よ)「万(世)」一・三

よわり「弱」キ五八

よわり(ゆく)「弱(行)」ク八九

「る」

るい「類」七

「わ」

わが「我」一

わが(きみ)「我(君)」五

わが(み)「我(身)」三・二八・六

二 一〇

わかし「若」キ二九

わかな「若菜」三三

わき(おく)「分(置)」キ六二

わく「分」カ六三・六五(そめ)

六一

わする「忘」レ三六

わすれ(くさ)「忘(草)」七

わた「綿」八七

わたくし「私」九四

わたす「渡」シ二四

わたつみ「海」五九

わたる「渡」リ二二 ル六五

(うつるひ) 六二(さしおほひ

(とび) 八(たなびき) 一〇

わづかなり「僅」二一五 六

ナル 六〇

わづらぶ「煩」(まち) 二〇

わぶ「侘」(うち) 二〇(さため) 九(とき) 九九

わらはべ「童・童部」一〇八

わらふ「笑」八八二

われ「我」二二

【あ】

ゐる「屈」 中 二三 一 一（おき

） 六八（あり） 一四（き

） 一七（たち） 二八（た

まり） 八八（むれ） 六九

をみなへし「女郎花」 七五

をらして（不明） 三三三（「をしらで

カ

をり「折」 六七

をる「屈」 レ 七八

をんな「女」 一四・二三 八〇

二・七・八・八・五八 二

【を】

を「緒」 二五

をかし シキ 七三 八

をこつり（ぎを）「誘（竿）」 三三三

をさなし「幼」 ク 六〇 キ 六〇

四

をしふ「教」 ヘ 三（櫛「をち」

をしむ「惜」 ム 三八 二七

をだまき「芋環」（しつ） 七四

をどこ「男」 一三 二・七・八・八・

一三・五六 七

をのの（え）「斧（柄）」 二二

をはり「終」 五

【付載】

詞書・左注自立語篇

【あ】

あき「秋」七〇・一〇七（むぎの）

④六一

あじろ「網代」一八五

あふ「逢」 八二六六 ヒ 二五五・一

六六

あまる「余」（おもひ） 二

あめ「雨」二〇九

あり「有」 リ 二〇九 ル 二

あをやぎ「青柳」二〇九

【い】

いと「糸」（やなぎの） 二〇九

いふ「言」 ヘ 一〇七

【う】

うぢ「宇治」一八五

【お】

おくる「送」 ル④六一

おとる「劣」 ラ 二〇九

おもて「面」二〇九

おもひ（あまる）「思（余）」 リ 二

【か】

かへし「返」一九〇・二〇五・二〇六・

二〇八

かへる「返（きえ）」 二〇九

【き】

きえ(かえる)「消(返)」ル二〇九

きし「岸」一八〇

きゆ「消」ユ二〇九

さつき「五月」㊦六一

【し】

しやうぐわつ「正月」二

なす「為・成」セ二〇九
なつ「夏」三六

【に】

には「庭」二〇九

にはたたき「庭叩」一八一

にはたづみ「庭漕」二〇九

くらす「暮」(ふり)二〇九

せみの(こゑ)「蝉(声)」㊦六一

【の】

のぞむ「臨」ミ一八〇

【じ】

じこ「此処」一〇七

じこ「恋」一五五・一六六

じふ「乞・請」レ二〇七

じろほひ「頃・此」二

じゑ「声」(せみの)㊦六一(とりの)二〇九

つかひ「使」一八〇

【と】

とき「時」一八〇

とりの(こゑ)「鳥(声)」

【ひ】

はな「花」(さくらの)二〇九

【わ】

さくらの(はな)「桜(花)」二〇九

ながうた「長歌」二

【な】

ひと「人」二〇七

ひねもす「終日」二〇九

ひを「氷魚」一八五・一九〇

〔ふ〕

ふゆ〔冬〕九一・二〇七

ふり〔くらす〕〔降〕暮〔シ〕二〇九

みづほ〔瑞穂〕二〇九

みどり〔緑〕二〇九

みゆ〔見〕ユル二〇九

みる〔見〕ル二〇九

〔や〕

やうやう〔様様〕二〇九

やなぎの〔いと〕〔柳〕糸〔二〕二〇九

〔ほ〕

ほころぶ〔綻〕ヒ二〇九

ほど〔程〕二〇九

〔む〕

むぎの〔あき〕〔麦〕秋〔④〕六一

むめ〔梅〕二〇七

〔わ〕

わが〔み〕〔我〕身〔二〕二〇九

〔ま〕

また〔又〕二〇六

〔め〕

めす〔召〕ス二八〇

〔ゐ〕

ゐる〔居〕ヰル二〇九

〔み〕

み〔身〕わが〔二〕二〇九

みだる〔乱〕レ二〇九

〔も〕

もの〔物〕二〇九

もみぢ〔紅葉〕一八〇

〔④〕六一は、六一番歌の左注の語彙で
ある事を示す。他は、詞書中の語彙。

付記

今回を以って『新編国歌大観』の本文による『賀茂保憲女集』の自立語索引掲載を終る。